会　議　録

【事業番号１４　「まちのり」運営費】

１　会議名　　平成 29 年度第３回市民行政評価委員会
２　日　時　　平成 29 年 10 月 11 日（水）午後 2 時 10 分～2 時 40 分
３　場　所　　議会３委員会室
４　出席者
（１）市民行政評価委員会委員
　　岡田委員長、村田委員、林委員、山崎委員、寺田委員、
　　大家委員、喜成委員、西山委員、藤田委員、安田委員
（２）事業担当課（歩ける環境推進課）
　　安宅課長　小木係長
（３）事　務　局（行政経営課）
　　津田課長、松本課長補佐、島崎係長、古谷主査

５　審議内容

評 価 委 員　：　市の負担金の金額は「年度協定で決定」とあるが、金額決定の時期や基準など、もう少し詳しく教えて欲しい。（事前質問）

事業担当課　：　年度決算や当年度利用状況の推移を勘案し、当初予算で次年度の市負担金を決定している。

評 価 委 員　　二次評価で「事業費に対する負担のあり方を検討」とした意図をお聞きしたい。（事前質問）

事　業　局　：　北陸新幹線金沢開業を機に大幅に観光客の利用回数が増加し、これに伴い、収入・支出とも当初計画から増加しており、特に収入の増加は大きい。委託契約の更新年度である平成 32 年度に向けて、市負担金が減となるよう、委託内容の見直しを図る必要があると判断した。

評 価 委 員　：　市民の日常の足としてはどれくらの割合で利用されているのか。（事前質問）

事業担当課　：　市民利用は約１割である。

評 価 委 員　：　市内在住者の利用が１割とのことだが、「マイカーから公共交通への転換」の目的は果たしていると言えるのか。今後どのように取り組んでいくのか。（事前質問）

事業担当課　：　来街者のレンタカー利用からの転換も含め、一定の成果は上げられていると考える。今後はバスなど公共交通と連携した利用を促進し、マイカー利用の抑制を図っていきたい。次期「まちのり」

の利用者の方向性等については、現在「まちのり」のあり方検討委員会で協議中である。

評 価 委 員　：　基本料金１カ月又は１年で利用する個人と法人の利用目的や市内外の内訳、法人の業種を判る範囲で教えて欲しい。（事前質問）

事業担当課　：　1 ヵ月、1 年の利用者は主に県内在住者が通勤に利用している。法人会員は県内の事業者であり、業種は多岐にわたる。

評 価 委 員　：　機器の臨時修繕費、自転車更新費、サポート人件費はどこの予算で対応しているのか。（事前質問）

事業担当課　：　機器の臨時修繕費、サポート人件費は運営事業者で執行している。自転車更新費は市で執行している。

評 価 委 員　：　他県での「まちのり」に類する事業の利用及び財政状況はどうなっているのか。

事業担当課　：　コミュニティサイクル事業を実施する政令市や中核市を見ると、ターゲットを観光利用とするのか市民・定期利用とするのか、その中間を選択するのかにより運営形態や規模が大きく異なっている。この事業だけで採算が取れている都市はなく、規模が大きくなるほど財政負担が多くなっているのが現状である。

評 価 委 員　：　運営事業者の過去５年の収支状況を教えて欲しい。（事前質問）

事業担当課　：　委員会資料のとおりである。

評 価 委 員　：　過去の公募状況を教えてほしい。（事前質問）

事業担当課　：　平成 23 年度に実施した公募プロポーザルでは６社が参加した。

評 価 委 員　：　プロポーザルの判断基準を教えて欲しい。（事前質問）

事業担当課　：　貸出・登録のシステムや設備、運営体制、運営計画並びに付帯事業などについて総合的に勘案し評価した。

評 価 委 員　：　車体広告は事業者が決めているのか。またその収入も事業者へ入る仕組みなのか。（事前質問）

事業担当課　：　そのとおりである。

評 価 委 員　　平成 28 年度の運営事業者の収入が約 3,300 万円、支出が約 5,300 万円と約 2,000 万円の赤字であるが、これに対して市が 1,800 万円負担しているということか。黒字になった時は、事業者の設備投資費となるのか。

事業担当課　：　そのとおりである。

評価委員　　：　市の負担金の積算根拠は。

評 価 委 員　：　前年度の実績と利用状況を勘案して積算している。

評 価 委 員　：　「まちのり」の利用料金は市が決めるのか。

事業担当課　：　そのとおりである。

評 価 委 員　：　運営の目的であるが、観光客のためか、市民のためか、主体を誰にするかによってアプローチの仕方が違ってくる。利用者の目的毎の利用状況や課題を整理し、これからの対応を検討すべき。

事業担当課　：　当初は観光客と市民の両者を対象にしていたが、観光客の利用が多く、市民の利用は少ないのが現状である。現在、「まちのり」あり方検討委員会で、利用者の対象や事業エリア、運営形態等を議論しているところである。

評 価 委 員　：　市民からの意見で「負担金の金額が大きい」との意見があるが、事業のあり方についてどう考えているか。

事業担当課　：　自転車利用者数が年間 20 万人であり、そのまま自動車で換算すると渋滞は避けられない。渋滞緩和のためにも、この事業は必要である。

評 価 委 員　：　経済効果もあると思うが如何か。

事業担当課　：　そのとおりである。自転車を利用することで、時間を有効活用でき、観光地を多く回ることができるという意見もある。

評 価 委 員　：　支出の内訳で人件費の割合が高いが、適正なのか。

事業担当課　：　自転車の再配置のためにポート間を行き来することに加え、ポートに観光客向けの案内人を配置しているため、経費が掛かる。

評 価 委 員　：　あり方検討会の中で増収策も考えながら、この事業の適正事業規模を検討して欲しい。利用回数から考えるともう少し収入が多くても良いと思うが、乗り継ぎ制度もあるので仕方がない。そこの工夫が必要である。また、利用料金は金沢市が特別高いということもない。観光客の方なら増額しても大丈夫かと思う。最近、観光客が多く見受けられるが、自転車保有台数が 155 台では少なく感じる。台数を増やしても良いのではないか。市の負担金については、2,000 万円くらいなら市の観光施策としては、妥当ではないかと思う。